

1 . ABC の進展と IT

ABC はこの 10 年間で大きく進展し、その過程で IT はきわめて重要な役割を果たしてきた。

原価計算対象の原価算定の精度向上を目的とした ABC においては、間接費割り当ての精緻化による計算作業の複雑化に対応するため、利用部門での PC の普及を背景に表計算ソフトが活用された。活動の改善を目的とした ABM では、原価低減検討のために PC 上でのグラフィカルなモデリングツールが用いられ、活動と原価との関連づけや改善効果についての What's if シミュレーションが容易に行なわれるようになった。さらに、活動に基づく予算管理を目的とした ABB では、資源の有効利用のために活動と資源の所要量との関係を計画し、モニターする。したがって、企業内に分散した大量のデータとダイナミックに連携し、分散的に管理されている資源の利用に関する実績情報やコスト・ドライバー情報などを蓄積している企業のデータベースに迅速にアクセスできる統合的な IT 環境が必要となってきた。

2 . 統合的 ABC システム

以上のような広範な ABC システムは、先進的な IT をベースとした経営革新をめざしている。活動に関する原価情報の蓄積によって戦略策定や予算編成作業に際して、資源やキャッシュフローへの影響を予測するための情報を提供し、従来の機能別・部門別管理ではなく、プロセスないし活動を中心とした経営管理を支援する。

期末での原価情報のみならず、今日現在までに発生した事象に関するデータに基づいて、原価を迅速に算定し、日々の動きに対応できるよう現場およびトップマネジメントに情報提供する。これらの目的を達成するために、経理部門のみならず企業内のさまざまな部門やレベルの情報を共有し、ネットワークを活用して利用者のニーズに適合した情報を収集・配布する。

統合的 ABC システムは、一連の計算処理を担う ABC エンジンの周辺に 2 つの重要な IT が活用される。モデリングツールは、グラフィカルに資源、活動、

原価対象、活動と活動との関係、コスト・ドライバーを定義し、ABC エンジンとの間で、活動原価、活動ドライバー量などの情報を双方向に情報交換し、効果的なプロセス改善を支援する。

データ・ウェアハウスは、ERP などの基幹系システムの多様なデータベースから、ABC エンジンで必要となるデータを迅速に抽出する。さらに、OLAP (On-Line Analytic Processing) 機能を活用してドリルダウン処理やスライス&ダイス処理を行ない、さまざまな次元(切り口)や深さで原価を分析し、多角的かつ戦略的な収益性分析を支援する。

ABC の企業経営における役割が、原価計算から原価情報支援、そして、予算管理や業績管理へと、活動をベースとして企業全体の原価情報への統合に向けて変化するにつれ、IT の役割として、計算機能から情報支援、そして必要な情報とエンドユーザーとを接続するという情報交換の機能が重視されるようになる。

経理会計業務が IT 創生期の重要な適用業務であったことを省みるならば、あらたな IT の活用が会計実務変革への重要な実現要因となりうることが期待される。

参考文献

Kaplan, R. S. and R. Cooper, *Cost & Effect: Using Integrated Cost Systems to Drive Profitability and Performance*, Harvard Business School Press, 1998(櫻井通晴監訳『コスト戦略と業績管理の統合システム』ダイヤモンド社, 1998年。)

櫻井通晴『新版 間接費の管理 ABC/ABM による効果性重視の経営』中央経済社, 1998年。

小酒井・山田・松島「ABC/ABM 資源利用アプローチと情報技術」『経営情報学会 1998 年度秋季全国研究発表大会予稿集』, 1998 年, 165-168 頁。